

進路HR「受験の基礎知識」講演後のアンケートより

進路HR「受験の基礎知識」講演後のアンケートをふまえて戸田進路指導部長に執筆していただいたものを載せておきます。

【おすすめの勉強法について(特に高校1年生時の)】

おすすめの勉強方法と言われてもなかなか答えにくいところがあります。なぜなら、自分に合った勉強方法は人によって違いますし、**おすすめしてもやらない人が多すぎる**からです。

あえて、万人に共通する鉄壁のおすすめ勉強方法と言えば、

【覚えるときには書いて覚える】。

どうですか？ 実践する気になりましたか？

私自身が高校生だったときの経験からしても、教員としての視点から考えても、とにかく、「何かを覚えたければ書いて覚える」のが鉄則です。私は決して記憶力が悪い方ではありませんが、それでも、何かを覚えるときには必ず書いて覚えました。

なぜか？ **【見て覚えたものはすぐに忘れる】**からです。

古文単語や漢字の小テストをすると、授業開始前にはみんながんばって覚えようとしています。ただし、書いて覚えようとしている人はほとんどいません。そして、小テストや定期テストで、前回や前々回に出題したのとまったく同じ問題を出したとします。すると、ほとんどの人が間違えます。**前回や前々回の小テストで勉強した内容をすっかり忘れている**のです。

多くの人がやっていることは、「勉強」や「学習」ではありません。ただの「作業」です。こんなことをいくら繰り返しても、もちろん学力は向上しません。

参考までに、私が英単語を覚えるときに実践していた方法を紹介します。

- ① 覚えるべき英単語をノートの左端に書く。
- ② その英単語を見ながら、単語の右側に日本語訳を書いて覚える。
- ③ ノートの左端を折って英単語を隠し、日本語訳を見ながら英単語を書く。
- ④ またノートを折って日本語訳を隠し、英単語を見ながら日本語訳を書く。
- ⑤ ③と④を繰り返して、「英単語→日本語訳」「日本語訳→英単語」のどちらも書けるようになる。
- ⑥ しばらく違うことをする(気分転換やほかの勉強など)。
- ⑦ 「英単語→日本語訳」「日本語訳→英単語」ができるかどうか、今度は目で追いかながら確認する。このとき、上から順に確認するだけでなく、下から上に(単語を書いた順番とは逆に)確認する、奇数や偶数の順番のものだけ確認するなど、自分の記憶をあえて混乱させるようなことをしてもできるかどうかをチェックする。

英単語の小テストはたいてい「英単語→日本語訳」ですが、「日本語訳→英単語」まで覚えておけば、それより簡単な「英単語→日本語訳」は完璧にすることができます。「**求められること以上のことをしておく」「自分の記憶が保てているかをきちんとチェックする**」ことで、小テスト勉強だけで英単語はほとんど覚えることができました。高校3年生になってから、「受験のために単語帳で覚える」といった必要が無かったので、**結果的には、ずいぶ**

ん時間短縮をすることができたと思っています。

【高校1年生のあいだにどのくらい勉強すべきか】

これもまた、答えにくい質問ではあります。「どのくらい」には「量(内容)」と「時間」があると考えられます。また、「**量(内容)**」については学校の授業の内容を習得していれば十分です。

ここで「習得」といったのは、学習したことが自分の身についているか、長期記憶になっているか、定期テストや模擬試験で再現できるか、ということが大切だからです。

「授業を理解する」だけなら、ほとんどの人ができると思います。もし授業が理解できない人がいれば、それは極めて深刻な状況なので、すぐに担任の先生に相談してください。**授業を理解することが大切なのではなく、授業で習ったことを自分でもできることが重要**です。

たとえば、数学の授業を受けてその場では理解できても、模擬試験のときに同じような問題が出てまったく解けないのであれば、何の意味もないわけです。

授業を受けて、同じことがすぐに自分でもできるようになり、そしてそれをずっと忘れないでいるという人は、勉強しなくていいです。ただ、**ほとんどすべての人は、すぐに忘れます**。私も忘れます(しかも年齢とともにその速度は上がります…怖)。

だから、自分でもできるようになるまで、忘れずに再現できるようにするため、勉強するわけです。

そのために必要な「時間」については、個人差があるので、何とも言えません。1日30分くらい勉強していれば、定期テストでも模擬試験でも問題が解けますという人は、それでいいわけです。

多くの人はそうではないと思います。**1日3時間も4時間も勉強しても、なかなか身につかない**という人もいるでしょう。そういう人は6時間も7時間も勉強しなければならないし、勉強方法も見直す必要があるでしょう。

部活動と両立してそんなに勉強時間が確保できないという人は、自分のスマートフォンのスクリーンタイムをチェックしてください。すきま時間も含めれば、時間はあるはずです。ただ、やっていないだけです。

高校1年生時点でのいちおうの目安を述べるならば、

最難関大学合格者…1日最低2時間以上 (高2は3時間以上/高3は6時間以上)

それ以外の合格者…1日90分程度 (高2は2時間程度/高3は4時間程度)です。

これはだいたいの平均学習時間であり、たとえ何時間勉強したところで、身についたことがなければ無意味ですし、これより学習時間が短くても、学習内容を習得していれば、何の問題もありません。

要するに、「できるようになるまでやる」ことが大切なのであって、時間など気にしてもしかたないということです。一番良くないのは、何時間も「作業」を続けて、自分は勉強していると思い込むことです。何も身につけられていないのに机に向かおうとすらしない人は、もちろん論外です。

【現段階での成績があまりよくないが、今からでも難関大に間に合うか】

先に結論を述べると、「**わかりません**」。

残酷なようですが、**大学受験とは、必死で勉強した人のなかから合否を決めるもの**ですから、どれだけ必死に勉強しても、落ちるときは落ちます。従って、「間に合うか」と問われても、それは「あなたが残りの時間でどれくらいのことをできるようになるか」に掛かっているのであって、寝る間も惜しんで勉強してもできるようにならないかも知れないし、そんなに時間をかけなくても、できるようになるかも知れません。

ひとつ言えるのは、とりあえず目の前のことをしっかりできるようにすることが大切だということです。定期テストで点数を取れない人が難関大に合格することはできません。模擬試験で学力が向上しない人が、いきなり合格レベルの実力を身につけることもあります。小テストのような狭い範囲で学習したことさえ継続して覚えていられない人が、大学受験に必要な膨大な知識の量を一気に身につけられる方法もありません。

また、「先に結果がわからないなら勉強しませんか?」ということもあります。結果がわからないと不安になる気持ちは大変わかりますが、それでも、やるしかないのです。できるかどうかわからないからこそ、できたときにものすごく達成感があるのです。そして、**本当に真剣にがんばった人はたいてい合格するし、少なくとも笑顔で卒業していく**というのは、進路指導部に長年いるとよくわかります。真剣に、がむしゃらにがんばってください。

【どの教科で差がつきやすいですか／得意にしてお得な教科はありますか】

この答えははっきりしています。「**数学**」です。理系は特にそうですし、文系でも一番差がつくのは、とにかく「数学」です。これは大学受験の結果分析からも明確にわかっています。

極端な話、理系で、数学だけができると他教科が悲惨でも、合格できる大学はかなりあります。京都大学などの最難関大学は、やはり全教科そろっていないと苦しいですが、過去にもE判定から逆転して合格を勝ち取ったのは、数学が抜群にできる生徒でした。

文系でも、数学ができると共通テストで高得点が見込めますし、英数国3科目で受験できる大学は多いので、数学が得意であれば選択の幅が広がります。ただ、**文系の場合は特に、「英語」ができることが前提**です。最近、英語を苦手とする人がやや増えているようで、良くない傾向です。英語は学習量が如実に結果に反映する教科なので、英語ができる人は、だいたいほかの教科も成績が良いということがわかっています。

「**数学**」の次に差がつくのは「**理科**」でしょう。たとえば、京都工芸繊維大学は、理科(化学／物理)が得意であれば、かなり合格に近づきます。

私の専任教科でもある国語について言えば、そんなに差はつきません。が、国語ができる人で、問題文をきちんと理解できず、記述の答案をしっかり書けず、数学や理科が解けないという人は意外と多く存在します。基礎的な国語力は大切です。

【課外活動は具体的にはどう有利になりますか】

大学受験にとって有利という意味であれば、とにかく総合型や学校推薦型の入試については、科学コンテストなどの受賞歴があれば有利に働きますし、そうでなくともサタデープロジェクトなどに参加していれば**志望理由書や推薦書に反映**することができるので、**参加して**

いない人よりは明らかに有利です。

ただ、もっとも大切なことは、課外活動に参加するなかで、自分の興味・関心を深めることだと思います。参加してみて面白くなければ、自分はその分野に関心がないことがわかりますし、運良く興味を惹きつけられる何かに出会ったならば、それが人生を左右することだってあるかも知れません。

課外活動などを面倒だと感じてしまう人は、そもそも知的好奇心が足りないので、総合型や学校推薦型入試には向いていませんし、もっと言えば、あまり学習にも向いていないと思います。大学での講義などは、その分野に強い関心と興味があって一生の仕事にしている大学の先生が教えるわけですから、大学に進学して授業を受けても、苦痛にしか感じないかも知れません。

できれば知的好奇心を育てて欲しいですし、自分が好きな・興味のあることの幅を広げてみれば、どんなことも学問につながるので、大きな視点を持ってみることが大切です。

【私立大学の受験は受けられるだけ受けたほうがいいですか】

同じ大学を受け続けるならば、答えは「イエス」です。

多くの大学を受けるという意味なら、答えは「ノー」です。

私立大学には多様な試験日程と試験形態があるので、「どうしてもここに行きたい」という大学があるのであれば、同じ大学のあらゆる日程を受験すれば、もちろんその分、合格の確率は上がります。ただし、**場合によっては百万円近くの受験料がかかる**ので、保護者ともよく相談しましょう。また、受け続けると言っても、試験日程ごとに難易度が違ったりもするので、「ここが勝負」「ここは本番慣れのため」など、戦略的に計画を練ることが大切です。

多くの大学を受ける場合ですが、**私立大学は大学ごとに試験の出題内容や出題傾向が異なる**ため、受けければ受けるほど、一つの大学・学部に焦点を当てた対策がしにくくなります。そうすると、大学の出題傾向に合わせて学習することもできなくなり、合格は遠くなります。

一番良くないのは、「多くの大学を受ける」→「落ちる」→「落ち込む」→「学習に集中できない」→「落ちる」…というループにはまってしまうことです。これを「落ちグセがつく」と言ったりしますが、いったんこの流れに乗ってしまうと、簡単には逃れられません。

もちろん、「挑戦校」「実力相応校」「安全校」といった区分で志望校を考えることは大切ですが、**受験科目や出題傾向、試験日程などをよく考え、自分に最適なスケジュールを立てる**ことが重要です。